

◆実戦問題7◆

A ある人、まだ*朝まだき、宮へ参るに、*拝殿の天井に、*こちたくもうごめくものあり。いぶかしかりければ、よくよくこれを見るに、大きな蜘蛛、己が糸にて人を巻き、首筋に食ひつきてゐたり。蜘蛛はそのまま逃げぬ。やがて立ち寄り、取り巻く蜘蛛の糸すじをとりて、さていかなる人ぞと言へば、これは旅いたす者に待るが、昨日の*たそがれ、この所に来たり。求むべき宿しなければ、この*宮居に明かさむと思ひけり。後より座頭、これも疲れ顔の*遠方人と見えて来たる。」ともに寄り居て、旅の物語などするにぞ、我にひとしき人もありと思ふに、その*琵琶法師、*香箱の(1)やさしきを取り出し、これよきものか見て給はれとて、我が方へ投げたり。さらばとて、右の手にとるに、鳥もちのごとくして離れず。左にて押さふるにも、また取り付く。左右の足にて踏み落とさんとせしに、足も離れず。(2)とかくするうちに、かの座頭、蜘蛛と現じて、我をまとひて天井へのぼり、*ひたもの血を吸ひくらふ。(3)いたくたへがたうして、命も消ゆべきに極まりしに、不思議にすくひ給ふ。(3)命の親なりと語りしとなり。

成城大(経済)

出題文

出典
『御伽物語』

『御伽物語』は、江戸時代の成立で、怪異な物語を集めたものである。別名を『宿直草』という。作者は富尾似船。

*朝まだき＝朝早く。早朝に。

*拝殿＝神社の本殿の前にある礼拝を行うための建物。

*こちたくも＝大げさにも。

*たそがれ＝夕暮れ。

*宮居＝ここでは神社のこと。

*座頭＝僧の姿をした目の不自由な人。琵琶・三味線などを弾きながら語り物を語ったり、歌などを歌ったりした。

*遠方人＝遠くから来た人。

*琵琶法師＝僧の姿をした目の不自由な芸人。琵琶を片手に各地を巡り、寺や神社の創立の由来や歴史物語を語った。

*香箱＝香料を入れる箱。

*ひたもの血を吸ひくらふ＝た

設問

問1 傍線③の動詞について、活用の種類と活用形名をそれぞれ記せ。

問2 次の条件にあてはまる動詞を、そのままの形でそれぞれ一つずつ抜き出せ。

(i) 「一」の中にあるラ行変格活用の動詞

(ii) 「へ」の中にあるサ行変格活用の複合動詞

問3 傍線(1)(2)のここの意味を記せ。

問4 文中には、会話の部分が二箇所ある。最初と最後の三文字をそれぞれ記せ。

ただし、会話中の会話は対象外とする。

問5 傍線A～Fの人物について、同じ人物をまとめて表示した。正しいものを次の中から一つ選べ。

の中から一つ選べ。

① [A] [B・C・E] [D・F]

② [A・B] [C・E] [D・F]

③ [A・C・E] [B] [D・F]

④ [A] [B・D・F] [C・E]

⑤ [A・B] [D・F] [C・E]

問6 傍線(3)、「命の親なり」と言うのはなぜか。三十五字以内で説明せよ。

くさん血を吸う。

単語チェック

☑こちたく 形ク

☑いぶかし 形シク

☑やがて 副

☑やさし 形シク